

広島豪雨災害視察報告

全国からの支援金「第1弾」届けました！

8月20日未明に発生した広島の豪雨災害は、未曾有の被害となりました。全国の仲間の支援の気持ちを早く届けようと、第1弾の支援金を広島県医労連・桜井執行委員長（写真左・広島で開催された全厚労第62回大会会場にて）にお渡ししました。まずは、被災した組合員個人への支援です。

9月10日現在、約60万円の支援金が日本医労連に寄せられています。今後もよろしくお願い致します。



復旧にはまだまだ時間が、、



電線までであった土砂撤去



人力で土砂撤去した後にやっと重機が入り、作業が進んだものの、大きな岩が残り、全壊した家などは手付かずです。まだまだ時間のかかる作業です。広島県医労連の仲間も、時間を見つけてはボランティアに参加、奮闘していました。



14日、終日ボランティア作業に参加し、広島市民病院労組の仲間のお宅の泥撤去等を中心に行いました。泥がなくなった分、被害の大きさが目に見え、何とも言えない気持ちです。

同日18時、全国災対連代表世話人として全労連・小田川議長、保団連・住江会長も参加されて広島災対連結成総会が行われました（34団体・74名参加）。今後の支援について、**県外への一斉集中行動要請は当面留保し**、募金活動の呼びかけを行うことが確認されました。

全国のみなさん、支援金の取り組み強化をお願い致します。

15日、加盟組合訪問

10時、安佐市民病院へ。ここでは非組合員ですが薬剤師1名が亡くなるという悲しい事態になりました。組合員宅の全壊・半壊等も4件、役員が救済と情報収集に奮闘していました。病院の老朽化でOP室も雨漏りしましたが、新築予定もこの被害でどうなるかと心配の声も出されました。



安佐市民病院の労働組合事務所で、当日の様子や被害状況の説明を受ける。(上)中庭から外来1階に浸水、場所を示す広島市民病院労組・濱書記長(右)



医療機器の被害、2700万円以上



広島医療生協労組の組合員の被害は、床上浸水1名、床下浸水2名です。同時に深刻なのは、生協組合員の被害と医療機器の損害です。亡くなられた方の3分の1は生協組合員で、避難生活の方も多いとのことでした。

9月1日に新病院に引っ越しした後、旧病院施設を避難所として提供しています。12世帯21人が入居し、家族単位での部屋利用やペットも可とのこと喜んで頂いていると市の担当課長が案内してくれました。

施設の損害は、車搬入口が1.8Mの水で(左下)機械室が浸水、エレベーター故障、1階部分も80cmの浸水で(左上・石川書記次長が示す膝上まで)、CTや心エコーが故障しました。医療機器の損害等だけでも2700万円以上になるとのことでした。

広島中央保健生協労組への訪問はできませんでしたが、佐々木執行委員長が視察に同行してくださり、その間に被害状況を確認しました。

各組合がまだ情報収集を継続頂いている段階で、第2、第3の支援金で応えていきたいと思っております。ご協力を宜しくお願い致します。

*支援カンパ振込先(送金の際に「ゴウウカンパ」とご記入下さい)

金融機関 中央労働金庫 荒川支店
口座名義 日本医労連(ニホンイロウレン)
口座種類 普通預金 口座番号 5881014

支援金宜しく申し上げます